

別記様式（第5条関係）

会 議 録

会議の名称		令和7年度 第7回行政評価委員会																								
開催日時		令和8年 1月23日(金) 午後5時00分から 午後7時00分まで																								
開催場所		市役所別館1階大ホール																								
委員名		(1) 出席委員 加留部貴行、木本圭子、大石くみ、芹野千佳子、中川孝晃、山下永子、山下耕治 (2) 欠席委員 なし																								
所管課職員職氏名		<table border="0"> <tr> <td>福津市長</td> <td>福井崇郎</td> </tr> <tr> <td colspan="2"><b>事務局</b></td> </tr> <tr> <td>経営企画部長</td> <td>花田積</td> </tr> <tr> <td>経営企画部経営戦略課長</td> <td>向井泰博</td> </tr> <tr> <td>経営企画部経営戦略課経営戦略係長</td> <td>笹田泰弘</td> </tr> <tr> <td>経営企画部経営戦略課経営戦略係</td> <td>加藤慎太郎</td> </tr> <tr> <td colspan="2"><b>担当</b></td> </tr> <tr> <td>経済産業部長</td> <td>高山康和</td> </tr> <tr> <td>経済産業部観光振興課長</td> <td>波多野哲平</td> </tr> <tr> <td>都市整備部長</td> <td>長野健二</td> </tr> <tr> <td>都市整備部都市計画課長</td> <td>安永紳一郎</td> </tr> <tr> <td>都市整備部建設課長</td> <td>水上雅史</td> </tr> </table>	福津市長	福井崇郎	<b>事務局</b>		経営企画部長	花田積	経営企画部経営戦略課長	向井泰博	経営企画部経営戦略課経営戦略係長	笹田泰弘	経営企画部経営戦略課経営戦略係	加藤慎太郎	<b>担当</b>		経済産業部長	高山康和	経済産業部観光振興課長	波多野哲平	都市整備部長	長野健二	都市整備部都市計画課長	安永紳一郎	都市整備部建設課長	水上雅史
福津市長	福井崇郎																									
<b>事務局</b>																										
経営企画部長	花田積																									
経営企画部経営戦略課長	向井泰博																									
経営企画部経営戦略課経営戦略係長	笹田泰弘																									
経営企画部経営戦略課経営戦略係	加藤慎太郎																									
<b>担当</b>																										
経済産業部長	高山康和																									
経済産業部観光振興課長	波多野哲平																									
都市整備部長	長野健二																									
都市整備部都市計画課長	安永紳一郎																									
都市整備部建設課長	水上雅史																									
会 議	議 題 (内 容)	1 会長あいさつ 2 最終答申 3 令和6年度評価対象施策の事後報告 「7-1 国内外の人が何度も訪れたくなる魅力を磨く」 「4-2 暮らしやすさを実感できる生活基盤を整備する」 4 事務連絡																								
	公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開																								
	非公開の理由																									
	傍聴者の数	3名																								

	資料の名称	<p>【資料1】 最終答申案</p> <p>【資料2-1】 (7-1) R6答申に対する事後報告(当日配布)</p> <p>【資料2-2】 (7-1) 施策管理シート・事務事業評価【R6評価時点】</p> <p>【資料3-1】 (4-2) R6答申に対する事後報告(当日配布)</p> <p>【資料3-2】 (4-2) 施策管理シート・事務事業評価【R6評価時点】</p> <p>【資料4】 ※R6 施策評価結果 (R7.1.15_R6 年度最終答申より抜粋)</p> <p>【資料5】 委員からの補足事項(当日配布)</p>
	会議録の作成方針	<p><input type="checkbox"/> 録音テープを使用した全文記録</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 録音テープを使用した要点記録</p> <p><input type="checkbox"/> 要点記録</p> <p>記録内容の確認方法</p>
	その他の必要事項	

審議内容 (発言者、発言内容、審議経過、結論等)

第7回 会議録

1 会長あいさつ

**会長**今年度の行政評価委員会も今回で最後となる。どうぞよろしくお願いいたします。

2 最終答申

(会長から市長へ答申書の手渡し)

**会長**(【資料1】をもとに答申内容の確認)

**事務局**では、委員から事前にいただいた意見(【資料5】)を事務局で申し上げたのち、委員より口頭で補足いただき、市長からコメントを申し上げる流れとしたい。

**事務局**(【資料5】中委員A欄読み上げ)

**委員**市の人口ないし児童・生徒数が増加する中、不登校など諸問題の決定的な解決策は見いだせていない。施策1-2及び関連施策は、今後市を支えるこどもたちを救うものになるため、是非とも対応を考えていただきたい。教育委員会との連携も大切かと思う。

**市長**不登校などについては議会等を通じ、市長部局でもご意見を頂戴している。令和7年4月に教育長も就任し、こうした課題に関して随時意見交換を行っているところである。解決に向け、一歩ずつ着実に進めていきたい。

**事務局**(【資料5】中委員B欄読み上げ)

**委員**支援がより分かりやすかったら、という意見は保護者の方々からもよく聞く。幼児期の支援が充実している分、小中学校・高校・その先になると相談先が分からない等により支援につながりにくい部分があると考え。「この年齢ならここに」が可視化され、行政側の内部評価にも盛り込まれると良いのかなど。

支援がこども本人のためになっているのかも考えていくべきだ。学校・家庭以外の見えにくい部分にも目を向け、例えば保育園や放課後等デイサービスなどでこどもに寄り添う方々との連携も大事になってくると思う。不登校300人超えとも聞く。学びにつながるよりも手前の段階で地域とつながる仕組みがあれば。

**市長**今日では主にこども家庭庁を通じた各種支援が出てきている。本市においても支援の在り方を、こども家庭部を中心に改めて考えていく必要があると感じた。現在作成中の新しい教育プランにも、こどもたちの視点を積極的に取り入れていきたい。

**事務局**(【資料5】中委員C欄読み上げ)

**委員**どこで何をやるにしても、人手やお金の問題がつかまとう。もっと外の力を活用し、キッカケの創出に繋がればと考えた。答申中に、市内に居住する経営者の知識を拝借する旨も記載されていたが、そういった有識者の力を借りることで社会的信頼ややりがいの面からも、潜在的な企業・団体に訴求できると思う。

**市長**おっしゃるとおり、時々刻々と変化する情勢において、ヒト・カネは行政だけでは限界があると痛感している。官民公の連携は今後益々必要になってくるとともに、有識者を集めた意見交換も検討していったほうがよいのかなと思った次第である。

**事務局**(【資料5】中委員D欄読み上げ)

**委員**本市は、全国に20ある政令指定都市のうちの2つー福岡市と北九州市の間に位置しており、非常に恵まれた立地だと考える。同じような状況の自治体も幾つか在るため、それらがどんなまちづくりをし、どんな成功・失敗例を抱えているかという具体例がもっと出てくればと感じた。

**市長**福岡県市長会等で、類似自治体の首長とも意見交換を行っている。関係部署とも連携しながら、先行事例を調査研究できればと感じた。

**事務局**（【資料5】中委員E欄読み上げ）

**委員**全体を通じた補足を述べる。令和6年度行政評価委員会でも申し上げたが、課題が発生した際に熱い思いを持ってドライブをかける（前に進める）という点で、本市は他自治体に比べ少し弱い印象である。組織上縦割りで部分最適化を図ろうとするため、横方向の連携はなかなか難しいものと拝察するが、イオンモールの事例で申し上げたとおり、目先の問題だけでなく長期的かつバックキャストिंगの視点で全庁的に考えられるような仕組みをつくっていただきたいと思う。特にブランディングに際しては、担当だけでなく他部署を巻き込んだ推進体制を整備し、その進捗報告が行政評価委員会でも挙がってくれば、前進しているという印象を持たせたい。

**市長**行政の課題は常に山積しており部分最適化しがちであるが、全体最適化やバックキャストिंग型の視点を大切にしていかなければならないと思った。企業誘致については部を横断したチームで現在ビジョンを作成しているところである。こうした横方向の連携を市のデジタル化等にも活かしつつ、長期的な目線で取り組んでいきたい。

**委員**ブランディングは「どのような価値を提供できるか」を吟味したうえで取り組まなければならない。観光や産品に限定した機能的価値一何ができる、何が購入できる、何が食べられる等は昨今どの自治体も持っており、市独自の強みとはなりにくい。そうではなく、福津市民が共有し、文化の中で生まれ、さらにそれを受け取った人々が「それっていいよね」と思う情緒的・精神的・感情的な価値一わくわくして・おだやかにできるのか、最先端の気概に触れながらやれるのか等が重要であるが、福津市は未だ持っていない。

いろんな活動をしている市民から、「福津市だからこそこういうまちづくりを行ってきた」「こういう点が市の誇りだ」といった思いを拾い上げ、例えば「福津の水産物はこんな思いを持った人々が作っている」というようなストーリーが組み立てられると、真のブランディングにより近づくのではないかと思った。

**市長**行政としては目に見えるモノに注目してしまいがちである。しかし、市民のほうの中・外の視点をより持っているのではないかと感じた。郷づくり等、市民との意見交換を通じて、地域の人々から自発的に生まれる思いを大切に、モノに留まらない福津ならではの価値を醸成していければと考えている。

**市長**委員の皆さまの多角的な視点に基づくご意見に対し、感謝申し上げます。頂戴した答申の内容は経営陣にも共有し、今後の施策推進に活用していきたい。

**会長**（ここまでの総括）

～市長退室～

### 3 令和6年度評価対象施策の事後報告

#### 「7-1 国内外の人が何度も訪れたい魅力を磨く」

**担当**（【資料2-1】説明）

**委員**そもそもDMOの役割はデータ分析や企画にあると思うが、設立して間もないこともありそれらが十分ではなかったということか。

**担当**DMO代表が観光協会事務局長を歴任されたこともあり、観光協会で行っていた手法一事業者の無償協力にもとづくアンケート調査を実施していた。今後は予算の観点からも、本市経営戦略課が実施する市民意識調査など既存の手段を活用していきたい。

**委員**【資料2-1】p2の地図を拝見すると、宗像市が掲載されていないことに違和感を覚える。拠点施設から住民との関わりを見ていった際、新原・奴山古墳群は宗像市にまたがったエリアであるし、あんずの里もJR東郷駅からの方がアクセスしやすい。総じて、宗像市との連携が欠かせないと考えするため、施策の上位レベルで他市との連携を書き出してはいかかがか。

**担当**【資料2-1】p2の引用元が第2次『福津市』都市計画マスタープランであるため、宗像市については書けないという状況であった。新原・奴山古墳群に関しては宗像

市と福津市で協議会をつくり、連携してPRしている。また、「イカ王国 筑前玄海イカフェア」と題し、福津市を含め古賀市から芦屋町までの3市2町が協力して玄界灘のイカをPRするイベントも実施している。他市との連携の位置付けについては、今後の参考とさせていただく。

**会長**人の流れは点・直線で完結させるのではなく、網目状に入り組んだ構造になると、隣接する自治体それぞれが恩恵を受けられ理想的だと考える。2政令指定都市の間にある地理的特性や、「モノ・コトは時にシェアする」柔軟性を加味した、広域の視点が一層重要になってくるのでは。

**委員**夕陽館が開館した暁には、【資料2-1】p2における動線も大きく変わってくるのでは。サウナで有名な「湯らっくす」が今年福岡市に進出予定であるなど、温浴施設は注目を集めており、経済振興の起爆剤にもなりうる。経済産業部として、夕陽館との今後の連携に係る展望があれば伺いたい。

**担当**夕陽館はあくまで民間企業が運営するため、公である市がそこだけ別異に扱うのは難しいが、何かしらの協力ができないか検討していきたい。

**委員**夕陽館がこれまで長らく持続が懸念されてきた経緯を考慮すると、目玉スポットにしないといけなのでは。あくまで土地は市が所有しており、また地方創生の観点からも他の民間施設より重点を置くことが肝要であると考えます。

**担当**適宜関係各所との連携をはかり、様々なパターンを想定しながら検討していきたい。

#### 「4-2 暮らしやすさを実感できる生活基盤を整備する」

**担当**（【資料3-1】説明）

**委員**本市では運賃が電子決済180円、現金200円とのことだが、100円で乗れるコミュニティバスも自治体によってはあり、その金額なら気軽に利用できると思う。高齢化が進む中、高齢者が外に出るきっかけにも繋がるため、なんとか財源を確保して運賃を安くする等、重視すべき取り組みと考える。

**担当**大きく2点申し上げる。まず1点目は事業を持続可能なものとしていくため、また受益者負担の観点からも、利用者に一定の負担はお願いするものと考えている。2点目は、西鉄バスの初乗り料金が240円程度であり、コミュニティバスの乗車料金を引き下げると同社バスの利用減・撤退も懸念される。利用者側に立つとできるだけ安い運賃が望まれるが、民業を圧迫するなど他の公共交通体系に影響を及ぼす可能性も考慮しなければならない。

**会長**ミニバスを最も使っている年代は把握されているか。

**担当**詳細なデータは取れていないが、所感では高齢者である。

**委員**通学のための利用はないのか。

**担当**通学時間帯は運行していない。概ね8時～17時という、運転手1人で1日1台運行できるスケジュールで設定している。また、通勤・通学時間帯は西鉄バス等民間交通を利用してほしいという意図もある。

**会長**主な利用目的は高齢者の通院や買い物で、先に挙げたこどもの通学も考えられるが、少し視線を移し、人口の多くを占める生産年齢人口の活用を促すといった視点も大切ではないか。普段自家用車で移動する人がたまたまミニバスを使うだけでも、持続可能な事業という点で大きな支えになると思う。

**委員**利用者や市民へアンケート調査は行っているか。こういう運行時間・ルートなら使いたいといった潜在的ニーズの把握はいかがか。

**担当**市経営戦略課が毎年度実施する市民意識調査において、ミニバス含め公共交通に関する設問を設け、意見を収集している。また、ミニバスの路線変更時は市民を交えた意見交換会を実施し、集約した意見は適時盛り込んでいる。

**委員**【資料3-1】の説明でシェアサイクルとレンタサイクルを同一とみなしていたが、まず前提として前者は主に短時間利用向き・乗り捨て可能、後者は主に半日～1日レベルの貸出しといったように全くの別物である。本市の状況を鑑みると、観光目的で

のレンタサイクル事業はあまり上手くいかないと考える。他方、Charichari や HELLO CYCLING などのシェアサイクルは地元のニーズが一定程度確認できれば、導入することで一般市民の行動変容に繋がる可能性がある。これまでにシェアサイクルの検討はあったか。

**担当** シェアサイクルはかつて ecobike が参入したが、導入初年度から赤字が続き、残念ながら撤退してしまった経緯がある。本市の人口規模では黒字運営にもっていくのは難しいのだろうと感じた。

**委員** ユーザーの使い方に手がかりがあるのでは。例えば通勤で駅まで歩く際、乗り遅れるというところでシェアサイクルを使い、数分稼ぐと。そういった使われ方がベッタウンである本市でも期待できるのではないか。全市的でなくとも、熊本県天草市や三重県桑名市のようなエリアを絞った導入事例もある。再検討してみては。

**会長** (ここまでの一旦まとめ)

市の年齢構成や経済状況が今後変化し、今とは異なる車・お金の使い方ニーズにシフトしていく可能性もある。しかしながらまず大切なのは、今存在する交通基盤を住民がつくる・持続させることかと思う。たとえ網羅的でなく局所的でも、たまにバスに乗ってもらうくらいでも、何か「線」が残れば存続にはつながると思う。

**担当** 国交省も、デマンド交通の推奨など交通空白に対する取り組みに力を入れている。しかし実施となると、現状以上に経費がかかったり、エリア設計が必要だったり課題がある。各種意見をもとに、その他交通網との連携や、ミニバス以外にできることはないか等々知恵を出し合って、よりよい公共交通の実現に資するよう引き続き努力していきたい。

**委員** 社会教育に関する会議で何度か挙がっていたが、ガイドも観光ボランティアさんを募るなどして、ミニバスルートを活用した観光イベントはいかがだろうか。JR九州ウォーキングのように、市外のかたや転入してきて間もない福津市民にも PR できるだろう。

旧西鉄福岡駅については結果論ではあるが、当時地域の反対が大きかったものの利用は実際ほとんど無く、廃線後にシーサイドパーク(分譲地)ができたことで「もし存続していたら住民はどれほど便利だっただろう」という勿体ない事例になってしまった。これからは様々な悩み・課題を施策の枠に囚われず繋げて、よりロスの少ない楽しいものになればと思う。

**委員** 例えば北関東、千葉県香取市ではコミュニティバスが伊能忠敬ゆかりの観光地を巡るといった事例があった。ミニバスは乗車時間も長いし、観光面での活用は良いかもしれない。

**委員** 教育に混ぜても面白そうである。ミニバス＝高齢者ではなく、こどもたちにも「使っていいんだ」と思ってもらえるよう、ミニ社会科見学なるものがあったら興味深い。塾やイオンへ行くのにミニバスを使ってみよう、となるかもしれない。

**委員** 海外のバスのように Wi-Fi があれば、こどもたちやインバウンドによる動画視聴やゲームなどの需要発掘があるのでは。

**委員** 昨今は携帯電話の使い放題プランが浸透しつつあり、駅や観光地などのフリー Wi-Fi も減少傾向にあると聞くが。

**委員** 逆にアナログ視点一地図を活用するイベントもありかもしれない。

#### 4 事務連絡

**事務局** (事務連絡ののち閉会)